

長畝ふるさと通信

【2015年1月号】

■ 新年あけましておめでとうございます

右の写真は1月3日の田んぼの様子です。昨年12月は早々に雪が積もり、どうなることかと心配しましたが、年が明けると雪はほとんど降らず、1月末現在では積雪はありません。



15日には集落のあちらこちらでご近所さんたちが集まって「とうらやさん」をします。正月の松飾りや書き初めの習字などを燃やす行事です。ビール片手にするめや餅などを焼いて食べます。「うまいんだな、これが・・・」

■ 27年産作付け計画 → 転作率はなんと41.85%

米の減反政策とは・・・コメの価格を維持する目的で、コメの生産を制限する政策です。ところがコメの消費量の低下が止まらず、コメは余る一方でそれに伴い価格も下がる一方というわけです。佐渡の27年産米の転作率は41.85%。JAが生産目標数量を「作付け目標面積」に換算して各生産者に配分するのですが、配分を無視して作付けすると、そのお米はJAに出荷できず、国の補助金対象からも除外されてしまいます。「作りたくても作れない、減反を守ってもコメの価格は上がらない、どうすりゃいいのさ・・・」。安倍政権は2018年には減反政策をやめる方針だそうで、「自己責任で作りたいければいくらでもどうぞ、価格の保証は知りません」と言うことらしいのですが。

27年産米の品種別作付け計画は・・・コシヒカリ45.5ha、こしいぶき6.5ha、こがねもち2.3ha、加工米(こしいぶき)20ha、酒米(五百万石)10haで残りが転作となります。「売れる米」って判断が難しいんです。作り手の思いだけでは売れないし、買い手の思いだけでは作れない。売り手と買い手のバランスがとっても重要。

新年の誰も歩いていない雪の田んぼ道をフラフラと歩きながら「どうしたもんか」と考えましたが、妙案は浮かんできません・・・



- 作付け計画を地図に落とすとこんなかんじです。この中に周りを田んぼに囲まれた約100件の長畝集落があります。



■ 温湯消毒始まる

JAから作業委託されて8年目、今年も温湯消毒作業が始まりました。2月下旬までにJA佐渡管内で供給される種もみ、約180トンを温湯消毒します。今年から正式に導入された「新潟次郎」は多収性品種(コシヒカリが10a当たり500kg程度の収穫量に対して、新潟次郎は700kgもとれるそうです)として期待され、主に飼料用米として作付けされるそうです。



■ とにかく前へ

1月10日には組合員懇談会を開き、今年の方針を確認しました。どんなに厳しくともみんな前を向いて、とにかく前へ。吹雪の中電線に群がるスズメたちもみんな同じ方向を向いて耐えていました。今年も宜しくお願い致します。

「とにかく前へ！」

